

武尊通信

ほたかつうしん
第181号

群馬歴史民俗研究会

〒372-0033
群馬県伊勢崎市
南千木町 5226-12
gunrekimin@gmail.com

(振替00340-1-14572)

2025.3.1 発行

長柄首氏小考

高橋人夢

館林・邑楽地域を特徴づける神社に長柄神社と長良神社があり、その数は邑楽郡全体で四〇社（末社を含めると五五社）に及ぶという。また、『倭名類聚抄』（古活字本）から邑

に属する藤原長良を莊園鎮守として祀ったという。これまで触れられることの少なかった邑楽郡の古代氏族について意義づけた点で興味深い。しかしながら、長柄首氏に関する史料がほとんど残っておらず、氏族の実態や邑楽郡に進出した経緯については明らかにされていない。

楽郡の郷に「長柄」があつたことが知られる。「長柄」に関する地名・神社の由来については、尾崎喜左雄氏が長柄首氏との関係を見いだし（「長柄明神」『館林市誌 歴史編』、一九六九年）、その後前澤和之氏が詳細な検討を加えている（「長柄と長良神社の展開」『館林市史通史編一 館林の原始古代・中世』、二〇一五年）。前澤氏によると、古代邑楽郡に長柄首氏が進出して地域開発を担い、その氏族が勧請したのが「長柄神社」で、佐貫荘の開発に際して秀郷流藤原氏の流れを汲む佐貫氏が、古代邑楽郡以来の伝統を持つ長柄神社と同じ音を持ち、同じ藤原北家

『新撰姓氏録』（大和神別）には、長良首について「天乃八重事代主神之後也」とあり、大國主命と神屋楯比売命との間に生まれた八重事代主命（事代主命）を始祖とする大和国に本拠を置く氏族であつたことがうかがえる。なお、事代主命を同祖とする氏族に賀茂氏・三輪（大神）氏がおり、系譜を共有していたと考えられる。長柄首氏について直接示した史料はこれのみだが、大和国葛上郡の延喜式内社として長柄神社があるため、葛城を本拠としていたと見なせる。ここで想起されるのは四世紀末から五世紀末にかけて大和盆地南西部にかけて絶大な勢力を保持した葛城氏との関係である（小池浩平『古代東国のフロンティア・上毛野』みやま文庫、二〇一七

《第二九回 例会のお知らせ》

対面及びオンライン（Zoom）で開催します。

日時 二〇二五年三月三十日（日）

午後二時～五時

会場 前橋市中央公民館五〇五学習室

（前橋ブラザ元氣21 五階）

報告 矢嶋 正幸氏

「榛名山の参詣絵馬について」
坂本 達彦氏

「近世「溜沼」の機能と環境維持—上州館林藩領城沼を事例に—」

申込 会場・オンラインいずれの場合も参加申込が必要です。参加希望者は、申込フォーム（左記URL、二次元コード、

本会HP）に接続し
申し込みを行うか、
TELまたはFAX
でご連絡ください。



URL : <https://forms.gle/aR8UPSPnEnZvj5EJ9>

TEL/FAX : 0270 (32) 9070

年）。葛城氏の祖と伝えられる襲津彦に関する初伝の内容はすべて朝鮮半島での活動に関するもので、ヤマト王権において主に対外交渉を担った勢力と考えられている。『古事記』孝元段では襲津彦は「葛城長江曾都毘古」〔紀氏家牒〕逸文では「葛城長柄襲津彦宿禰」と呼ばれており、和田萃氏は葛城氏の